ハンドマイク街頭演説原稿例　自民党裏金問題処分

二〇二四年三月十四日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、自民党の派閥による政治資金集めパーティー券売上での裏金づくり事件について、自民党は所属議員に対する処分を行いました。処分されたのは、党内調査で裏金にかかわったことが明らかにされた議員と党支部長八十五人のうち、金額が多かった三十九人でした。裏金問題は、金額の多い少ないに関係なく法律違反の疑いが大きい行為です。金額が少なければ処分しないということは、裏金づくりという行為そのものへの反省がないことを示していると言わなければなりません。

　ところで、自民党総裁である岸田総理が会長を務めていた岸田派は、元会計責任者が裏金問題で有罪判決を受けました。ところが派閥の責任者たる岸田総理は処分されませんでした。裏金額が最も多かった二階・元幹事長も、次の総選挙に立候補しないことを理由に処分対象からはずされました。こんなでたらめな処分に、「真相解明なしのお手盛り処分だ」という批判の声が国民有権者から出てくるのも、当然ではないでしょうか。

　今回の裏金事件は、特定の企業や業界が、特定の政治家にワイロを渡して政治を思い通りにゆがめたという、今までの金権腐敗事件とは違います。自民党政治が丸ごとゆがんでいることを示していると言えるのではないでしょうか。

　みなさん、今回の自民党の処分では、キックバックの扱いを話し合った安倍派の幹部などについて、「離党勧告」、「党員資格停止」、「党の役職停止」などの処分としました。とはいえ、処分にどれだけの強い力があるのでしょうか。自民党ではこれまで、「離党勧告」の処分を受けても、ほとぼりが冷めれば速やかに復党させてきました。新型コロナの緊急事態宣言中に銀座のクラブ通いが発覚した松本・前衆議院議員が「離党勧告」を受けましたが、１年後にはあっさりと復党しています。「役職停止」についても、安倍派幹部のみなさんはすでに党役員から外れており、この処分を受けても効果はありません。これで「はい終わり」というわけにはいかないのではないでしょうか。

　裏金のシステムは誰が何のためにつくったのか、裏金を何に使ったのか、いまだに明らかになっていないことがたくさんあります。ウソの証言をすれば罪に問われる、国会での証人喚問を実現し、裏金をめぐっていろいろな疑いが持たれている森喜朗・元首相など関係者をそろって出席させ、真相解明を進めることが必要ではないでしょうか。日本共産党はみなさんと力を合わせて、裏金問題の真相究明と、自民党政治を終わらせるために全力で取り組んでいく決意です。引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

　裏金問題を最初に取り上げたのは、日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」日曜版のスクープ報道でした。この機会に「しんぶん赤旗」をぜひお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）